

II章 久留米市の歴史文化の特徴

1. 久留米市の概要

(1) 地理的・自然的環境

1) 久留米市の位置・面積

本市は、福岡県の南西部、東経 135 度 30 分、北緯 33 度 19 分に位置し、九州の中心都市である福岡市から約 40km の距離にあります。東はうきは市、西は佐賀県、南は八女市と広川町、北は朝倉市と大刀洗町・小郡市に接しています。

平成 17 年（2005）2 月の近隣 4 町（田主丸町、北野町、城島町、三潴町）との広域合併により市域は拡大し、東西 32.27 km、南北 15.99 km を測り、行政面積は 229.84k m² となっています。

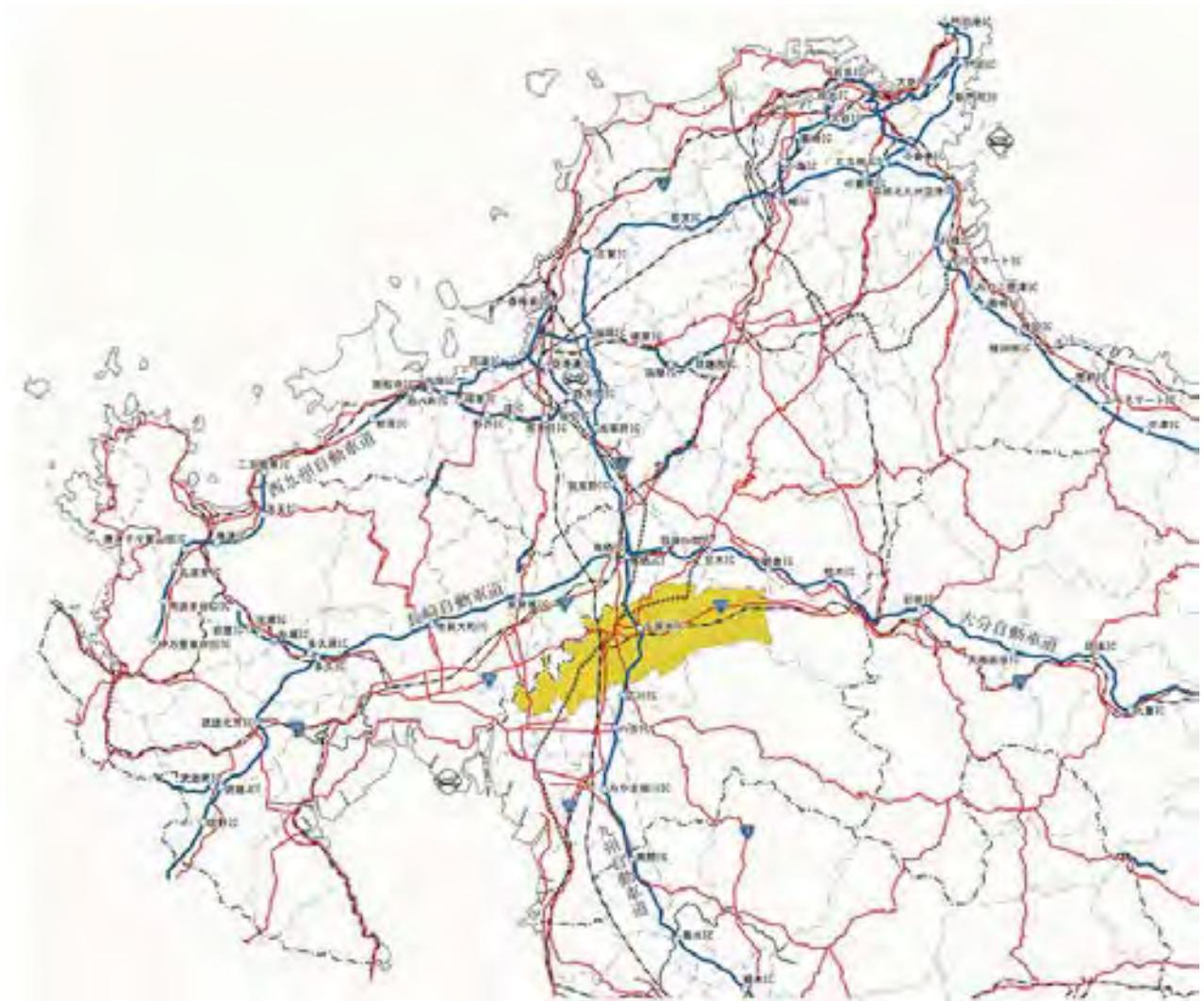


図 久留米市の位置

2) 地形・地質

本市は、市域の北東部から西部にかけて筑後川が貫流し、筑後川に沿って南側を東西に耳納山、高良山、明星山などの山々が連なっています。全体的に東南の山麓・丘陵地から、西北から西部にかけて緩やかに傾斜し、筑後川によって形成された広大な沖積平野の平坦地に続いています。

①筑後川

筑後川は熊本県の阿蘇外輪山に源を発し、大分県の日田盆地で周囲の小河川を吸収して大河へと成長します。その後、西へと流れ出し、福岡県内に至って平野を形成しつつ、市街地の北西付近で流れを南西へと転じ、福岡・佐賀県境を曲流して有明海へと注ぐ九州一の大河です。市内には宝満川、巨瀬川、高良川など 47 本の一級河川が流れています。これらは全て筑後川水系です。

②クリーク地帯

本市では、農業利水が発展してきたことより、各所にクリークが網目状に張り巡らされています。特に筑後川下流域の城島町や三潴町西部は、クリークが集中する低平地でクリーク地帯とも呼ばれます。

③筑後平野

筑後平野は、完新世の初期（約 1 万年前）は存在せず、現在の標高 10 m 付近まで海岸線となっていました。弥生時代（約 2,200 年前）以降、筑後川やその支流である宝満川などによってそれら河川の沖積作用により、九州最大の平野が形成されました。

筑後平野は、農地に広がる恵みの大地であるとともに、市民生活の場でもあります。三潴、城島周辺の平野部は、クリークが多い低湿な平野となっています。東部から西部にかけての田園部には、条里制の遺構も残ります。

④耳納山地

耳納山地は東西 30 km におよび、東に聳える鷹取山（802 m）を最高所とし、発心山（698 m）、耳納山（368 m）、高良山（312 m）と西へ行くに従い比高を減じ、狭小な扇状地を経て、市街地付近では地峡帯を形成する段丘へと派生します。山岳部の大部分は砂質準片岩、泥質準片岩、緑色準片岩、緑色片岩などからなる古生代の筑後変成岩を基盤とし、山岳部の東側には花崗岩も見られます。台地を構成する新生代砂礫層は耳納山地北麓と南西付近に分布し、同時代の頁岩、砂岩、凝灰岩は山地の西側に認められます。

⑤水縄断層

耳納山地北麓には、山地を縁どるように、本市の合川町から田主丸町を経て、うきは市に至る、全長約 26km の水縄断層が位置しています。この断層は、国指定天然記念物にもなっています。

なお、本市では、地震の観測が開始された明治 38 年（1905）以降、平成 17 年（2005）

の福岡県西方沖地震まで、震度 5 以上の地震の発生が一度もありませんでした。しかし、水縄断層は活断層であることが確認されており、また、近年、全国各地で地震が発生していることなどを踏まえ、本市においても大規模な地震災害の可能性も危惧されます。

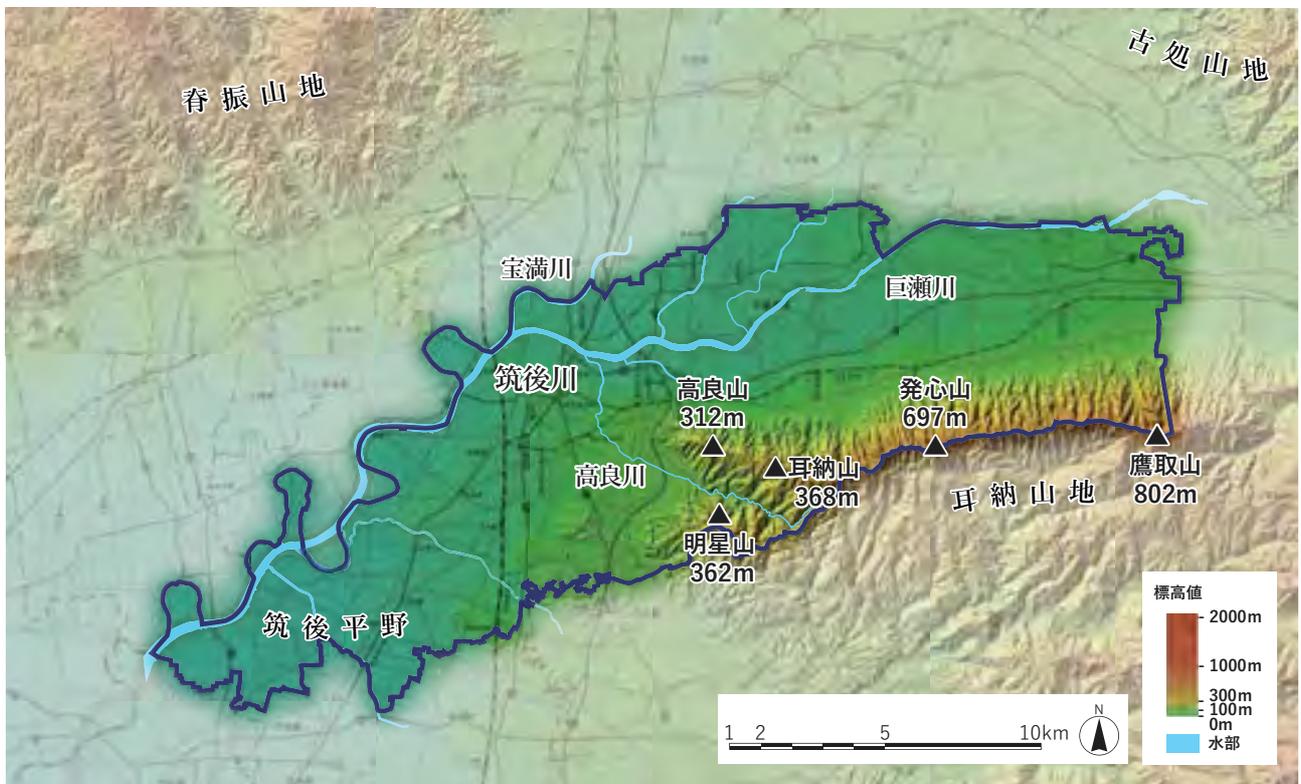


図 久留米市の地形（地理院地図（電子国土 Web）色別標高図、陰影起伏図、標準地図 一部改変）

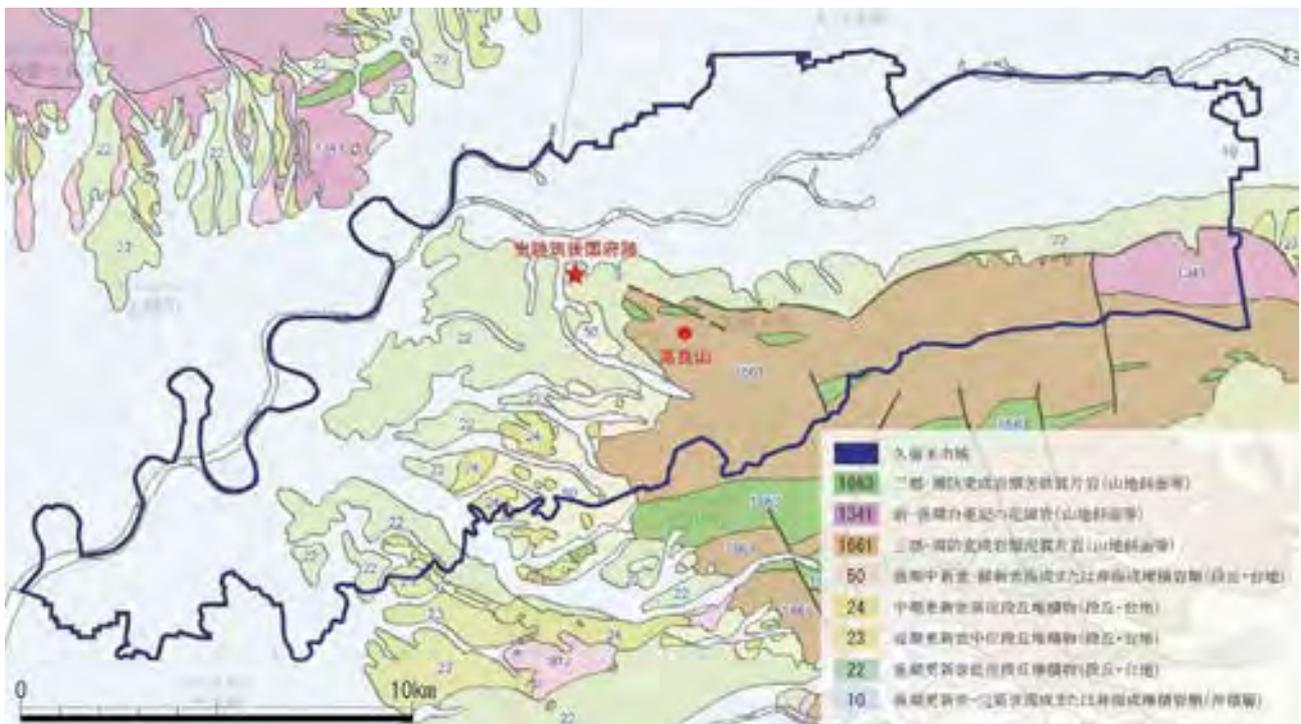


図 久留米市の地形・地質
（産業技術総合研究所地質調査総合センター「20万分の1日本シームレス地図」一部改変）

3) 気候

本市は内陸型の有明海気候区に属し、年間平均気温は16.3℃、年間降水量は1,919.4mmで福岡県内では暖かく雨の多い、夏と冬の気温格差は比較的大きい地域です。

降水量は梅雨時期に集中するとともに、年変化が大きく、近年では豪雨による浸水被害に舞われることが多い状況です。中小河川の内水氾濫が依然発生しており、市街地部では緑地の減少やアスファルト舗装の増加、また、ゲリラ豪雨などにより小規模で局地的な浸水被害が発生しています。

耳納山地では、平成3年(1991)の台風により風倒木が発生しており、現在でも表層が流出しやすい状況にあります。

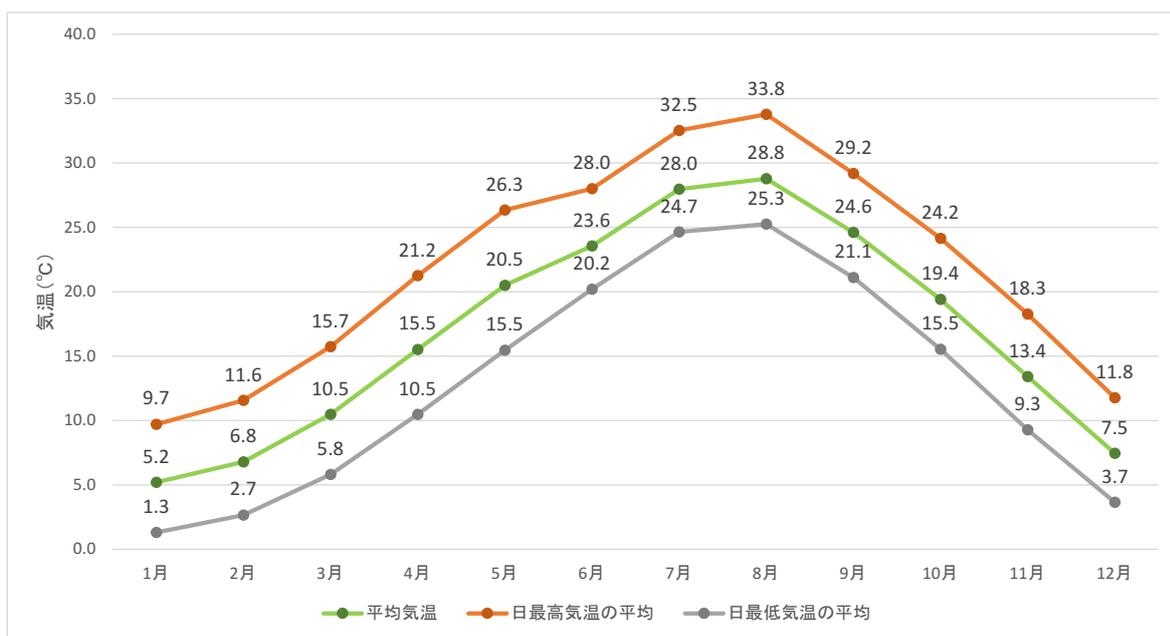


図 久留米市の気象

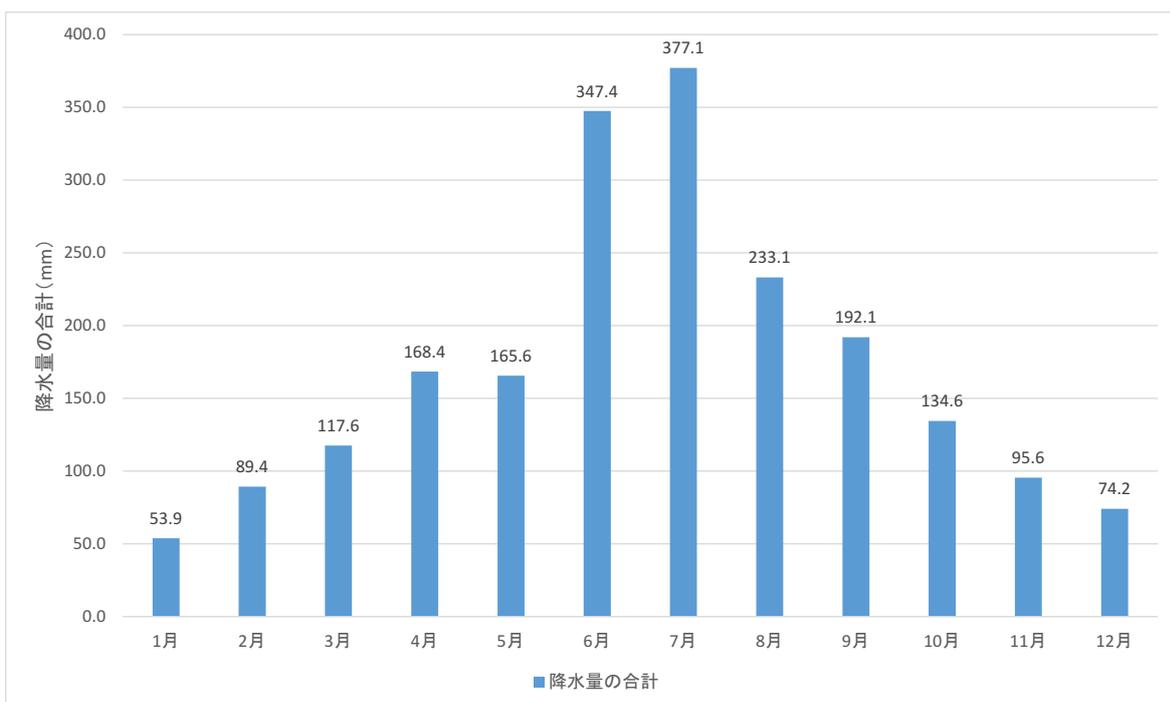


図 久留米市の降水量

4) 動植物

本市は筑後川と耳納山地に代表される水と緑に囲まれた環境にあり、多くの動植物が生息しています。環境省、福岡県が発行しているレッドデータブックに掲載されている貴重な動植物の生息も確認されています。

①筑後川流域

本市が位置する筑後川中流域には、水際にエビモ、ヤナギモなどの沈水植物、ヤナギタデ、ミゾソバなどの湿性植物、低水敷にツルヨシ群落、高水敷にはオギ群落が広く分布し、水際の植生も多様です。高水敷には九州北部では希少なセイタカヨシ群落も分布しています。河岸にはオオタチヤナギ、エノキなどの高木が点在しています。河床には、早瀬で産卵するアユ、アリアケギバチ、緩流域を好むウグイ、ギンブナなどが生息し、抽水植物に産卵するオヤニラミ、抽水・沈水植が繁茂する場所には、キイロカワカゲロウなどが観察できます。

陸域では、河岸の崖に営巣するカワセミ、礫河川で繁殖するコアジサシ、ツバメチドリなどの鳥類、オギなどの高木敷のイネ科植物に巣を作るカヤネズミなどの哺乳類などが確認されています。

②高良山周辺

高良山はコジイを主体とする常緑高木林で覆われていますが、一部には常緑高木林のシイ林の自然植生やクスノキ人工林が見られます。また、シダ植物の宝庫でもあり、ここを基産地とする種にコウラカナワラビがあります。国指定天然記念物であるモウソウキンメイチクや県指定天然記念物である大樟、さらに、市指定天然記念物であり、市花でもあるツツジの群生地も見られます。昆虫ではクロセセリ、メスアカムラサキ、サツマニシキ、ヒメクダマキモドキなどが生息し、鳥類ではオオタカ、チュウヒ、ハヤブサをはじめ 104 種の鳥類が観察できます。哺乳類は 16 種が生息しており、高良山鳥獣保護区が指定されています。

③「優れた生態系を有する地域」と「生物多様性保全上重要な里地里山」

本市では、平成 20～22 年度に実施した自然環境調査を踏まえ、平成 29 年（2017）に策定した『くるめ生きものプラン（久留米市生物多様性地域戦略）』において、「優れた生態系を有する地域」を 5 地区（城島町浮島（旧河道内の低湿地）、広川河口、高良山周辺、鎮西湖、筑後川中流域（恵利堰周辺））選んでいます。

また、平成 27 年（2015）には、環境省による「重要里地里山 500」選定において、「生物多様性保全上重要な里地里山」の一つに竹野地区が選定されています。

(2) 社会的環境

1) 市町村合併

本市は、明治22年(1889)に全国30市とともに日本で初めて市制を施行し、平成31年(2019)に130周年を迎えました。人口24,750人の市としてスタートしましたが、その後、近隣市町村との計10回にわたる合併、そして、平成17年(2005)2月の過去最大となる広域合併を経て人口30万人を超える新・久留米市が誕生しました。また、平成20年(2008)4月に、九州では県庁所在地以外で唯一の中核市となり、福岡県南部の中核都市として発展してきました。

表 市域の変遷

合併市町村	合併年月日	人口	世帯数	面積
市制施行	明治22年4月1日	24,750人	4,262世帯	2.66km ²
鳥飼村	大正6年10月1日	46,035人	8,851世帯	12.45km ²
節原村	大正12年8月1日	58,699人	11,771世帯	16.46km ²
国分町	大正13年11月1日	73,423人	14,774世帯	24.23km ²
御井町	昭和18年10月1日	99,762人	19,041世帯	28.85km ²
合川村 山川村 上津荒木村	昭和26年4月1日	114,943人	23,450世帯	49.41km ²
高良内村	昭和26年6月1日	120,762人	24,323世帯	62.69km ²
山本村 宮ノ陣村	昭和33年9月1日	142,443人	32,093世帯	80.18km ²
草野町	昭和35年7月1日	147,115人	34,989世帯	89.30km ²
筑邦町	昭和42年2月1日	180,991人	47,485世帯	113.40km ²
善導寺町	昭和42年4月1日	189,288人	49,726世帯	123.93km ²
田主丸町 北野町 城島町 三潞町	平成17年2月5日	305,948人	114,426世帯	229.96km ² ※

※面積計測方法の変更により平成26年10月1日までは229.84km²



図 市域の変遷

2) 人口の動向

本市の人口は、平成 17 年（2005）に増加から減少に転じています。
 現在、65 歳以上人口の割合を示す高齢化率は 25%に達しています。

①人口・世帯数の推移

本市の人口は、国勢調査をみると平成 17 年（2005）の 306,434 人をピークに減少に転じています。平成 27 年（2015）には一旦増加していますが、住民台帳の日本人のみの人口をみると、平成 29 年（2017）に再び減少に転じており、今後は本市も人口減少社会を迎えることとなります。

なお、世帯数については増加が続いています。平成 17 年（2005）時点で 121,913 世帯となっています。

1 世帯あたりの世帯人員は減少傾向が続いており、平成 17 年（2005）時点で 2.5 人に減少しています。核家族化の傾向が窺えます。

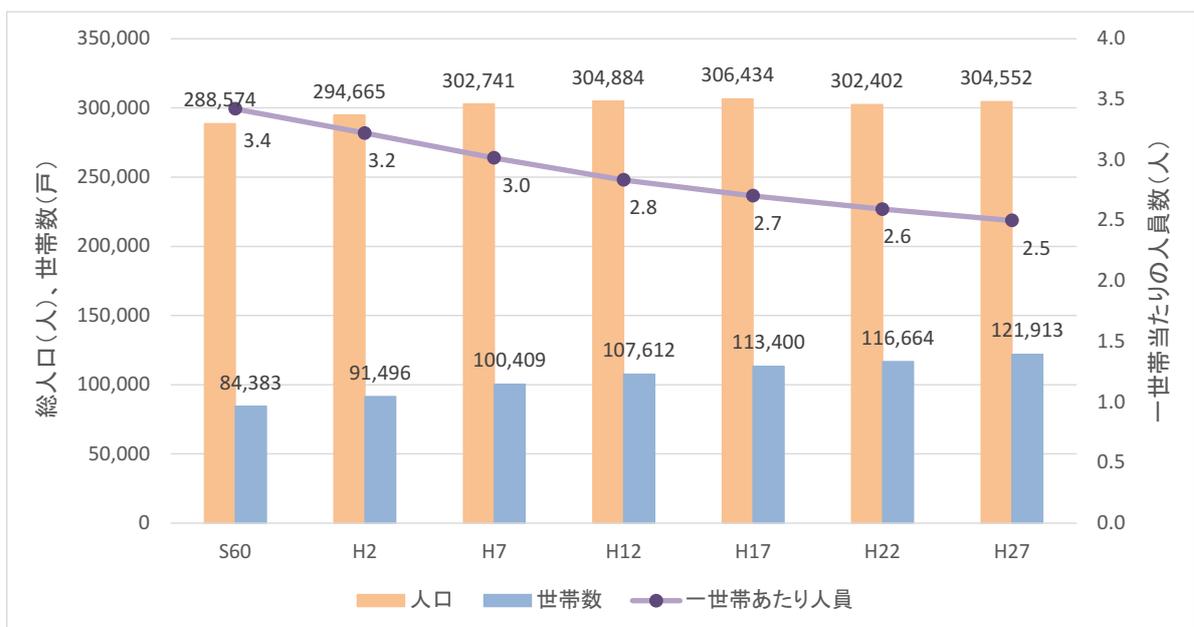
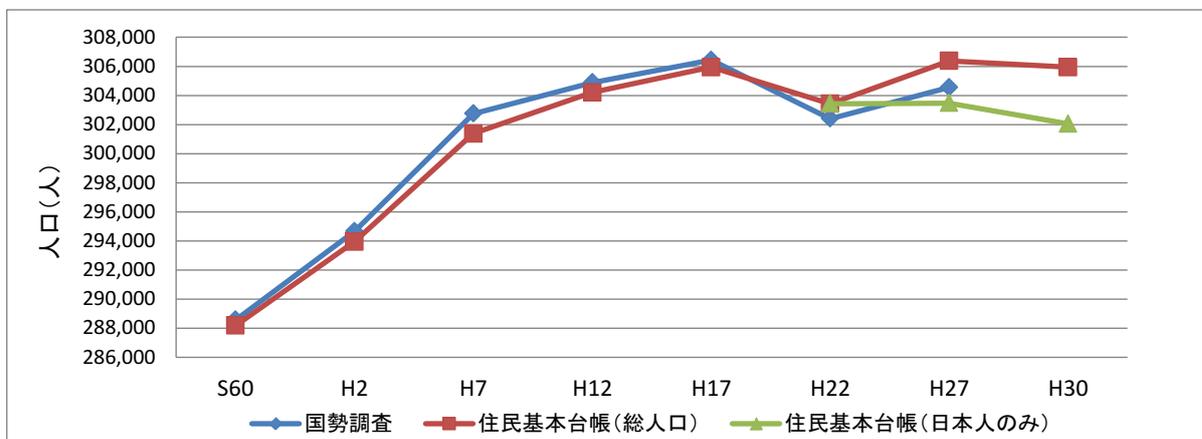


図 人口・世帯数の推移（資料：国勢調査、住民基本台帳）

注：1. 住民基本台帳は各年 10 月 1 日時点の人口

2. 住民基本台帳法の改正に伴い、平成 24 年（2012）以降は外国人を算入

3. 平成 16 年（2004）以前は、合併前旧 1 市 4 町の合計値（以下、同じ）

② 3 区分別人口の推移

本市の生産年齢人口（15～64歳）は、平成7年（1995）をピークに減少する一方、老年人口（65歳以上）は、一貫して増加し、平成12年（2000）には老年人口が年少人口（0～14歳）を上回っています。平成22年（2010）には、老年人口の占める割合が全体の21%を超える「超高齢社会」に突入し、平成27年（2015）には25%に達しています。

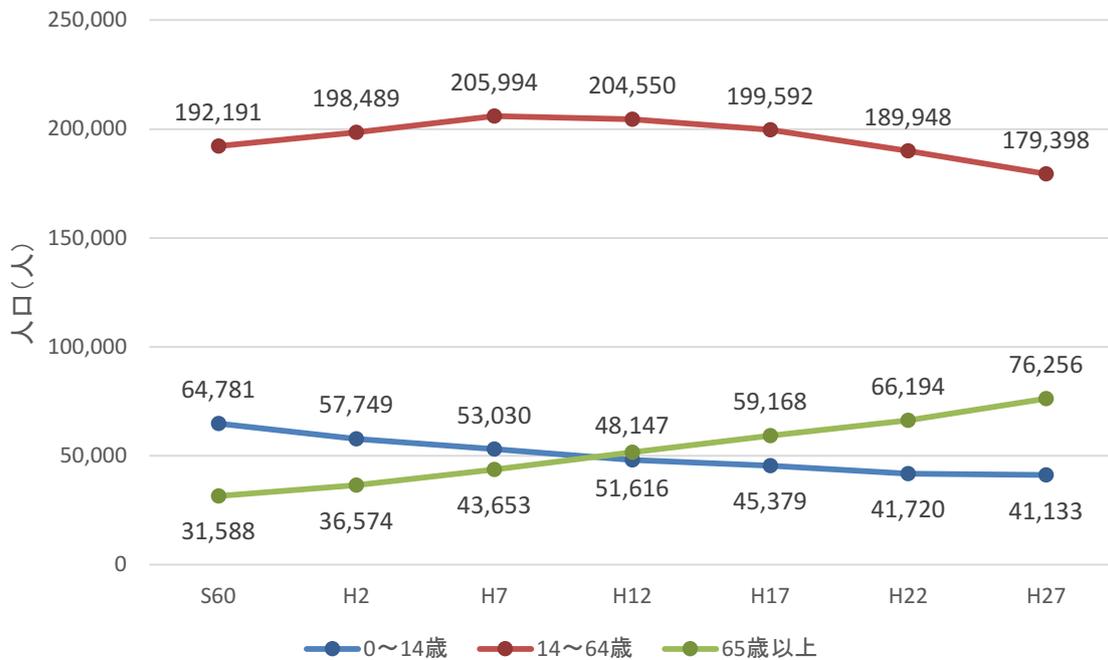


図 3 区分別人口の推移（資料：国勢調査）

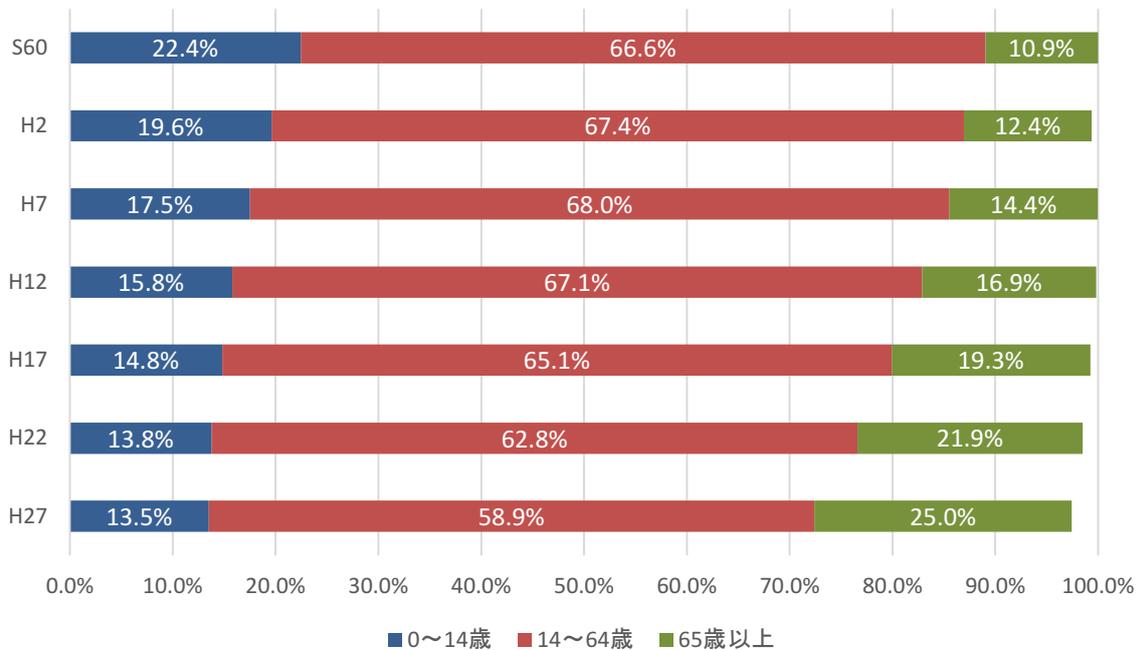


図 3 区分別人口の割合（資料：国勢調査） ※年齢不詳人口は含まない。

3) 産業

本市は九州有数の農業産出額を誇る一方で、工業、商業についても筑後地域の中心的な都市として発展を続けています。こうした産業の発展は、産業の近代化の進展を物語っています。産業の近代化が進展する一方、江戸期や明治期から続く伝統産業も営まれていることも本市の大きな特徴となっています。

①就業人口

平成 27 年（2015）の国勢調査をみると 15 歳以上の就業人口 141,546 人に占める第 1 次産業の割合が 5.5%、第 2 次産業の割合 19.3%、第 3 次産業の割合が 69.8%となっており、第 1 次産業の割合が減少傾向にある一方で、第 3 次産業が増加、第 2 次産業は減少傾向が止まり平成 27 年（2015）に増加しています。

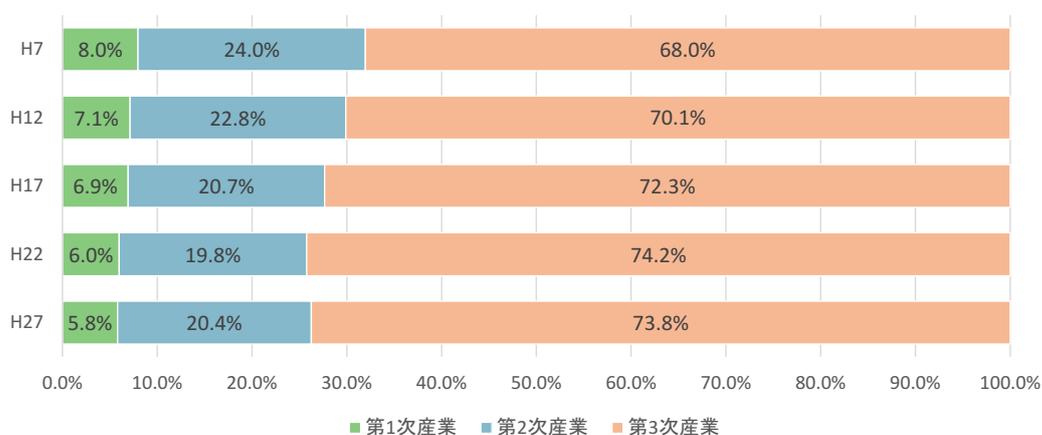


図 産業別就業人口の推移（資料：国勢調査） 注：分類不能の産業を除いて割合を算出

②農業

本市の農業は、肥沃な土壌を持つ広大な筑後平野と筑後川から引かれた用水により発展してきました。現在、米、麦、野菜、花き、花木、果実など、多様な農産物が生産されています。

就業人口において減少が続く第一次産業ですが、本市の農業産出額については、平成 29 年（2017）市町村別農業産出額（農林水産省公表値）をもとにした試算によると、325.1 億円にのぼり、県内で 1 位、九州沖縄で 11 位となっています。

●床島用水

筑後川は、川底が深く流れが急なため引水が難しく、近世の北野町周辺地域は日照りに苦しんでいました。正徳 2 年（1712）、筑後川中流に久留米藩士の草野又六と 5 人の庄屋たちによって床島用水が築造され、水田が拡大し日照りに強い土地となりました。現在では約 3,000 ヘクタールに及ぶ水田の灌漑用水となっています。

●三潴用水・安武用水

明治・大正期には下流域に三潴用水や安武用水が築造され、耕地整理が進みました。昭和8年（1933）、高三潴に建設された赤煉瓦造の旧三井寺ポンプ所及び変電所（国登録有形文化財）は、長閑な田園風景の中にあり、地域の開発の歴史を象徴しています。



図 床島用水

【コラム】小学校で受け継ぐ「とこしま堰物語」

久留米市立金島小学校は、床島堰づくりを決意し、やりとげた高山六右衛門、秋山新左衛門、鹿毛甚右衛門の三人の庄屋が校区にいた小学校です。総合的な学習の時間で、筑後川や床島堰について学習を進め、五庄屋とともに堰づくりを支えた農民たちにも目を向けながら、創作劇「とこしま堰物語」をつくりあげ、20年以上にわたって上演を続けています。この劇づくりは、金島小学校の伝統になり、床島用水づくりの思いが受け継がれています。

●久留米つばき・久留米つつじ

耳納山地の北麓は、江戸時代から植木・苗木の生産が盛んな地域でした。本市は、現在も全国で有名な植木・苗木の生産地であり、特に、久留米つばきは生産量、新品種開発の豊富さとも全国有数です。

また、市の花である久留米つつじは、江戸時代に久留米藩の馬術師範であった坂本元蔵が生みの親であり、元蔵は100種類以上もの品種をつくり出しました。現在もそのいくつかが久留米つつじの優秀な品種として育てられています。

【コラム】シーボルトと久留米つばき

久留米つばきの代表的な品種の一つに「正義」があります。「正義」は八重咲きで濃い紅色に大小の白い模様が入っています。1830年にドイツの医師で博物学者のシーボルトがヨーロッパに持ち帰ったところ、人々に「冬のバラ」と褒めたたえられ、つばきブームを巻き起こし、「ドンケラリー」の名前で世界中に広がったといわれています。現在、本市の草野町には、樹齢300年など「正義」の古木が6株ありますが、そのいずれかが「ドンケラリー」の母株といわれています。

③工業

本市は、地下足袋生産から発展したタイヤ・ゴム靴などのゴム製造業が盛んです。交通便利性の高さから企業立地が進み、平成 25 年（2013）以降、製造品出荷額等は 3,000 億円を超えています。他方、伝統的な製造業も盛んな地域です。

●ゴム産業

「日本の履物・ゴム産業発祥の地」と言われる本市は、ゴム 3 社（ブリヂストン、アサヒシューズ、ムーンスター）と呼ばれる明治・大正期に創業した企業に代表されるゴム製造業は、本市のものづくり産業をリードしてきました。平成 26 年（2014）の産業（中分類）別製造品出荷額等をみると、ゴム製品製造業は最も多く、約 772.4 億円となっています。

●企業立地

J R 鹿児島本線・久大本線・西鉄天神大牟田線、九州自動車道などが通じる交通の要衝であることや、九州最大の都市・福岡市の都市圏と隣接するなどのアクセス利便性も高いことから、製造業をはじめとする多くの事業者が本市に進出しています。平成 22 年度から平成 29 年度の 8 年間では 23 社が立地しています。

●伝統的な製造業

江戸後期に普及した久留米絨による繊維産業、明治期に筑後川の水を利用して発展した酒造業、この他にも瓦、和傘などの伝統的な製造業が現在も続いています。

詳しくは、後述の文化的環境の中で紹介します。

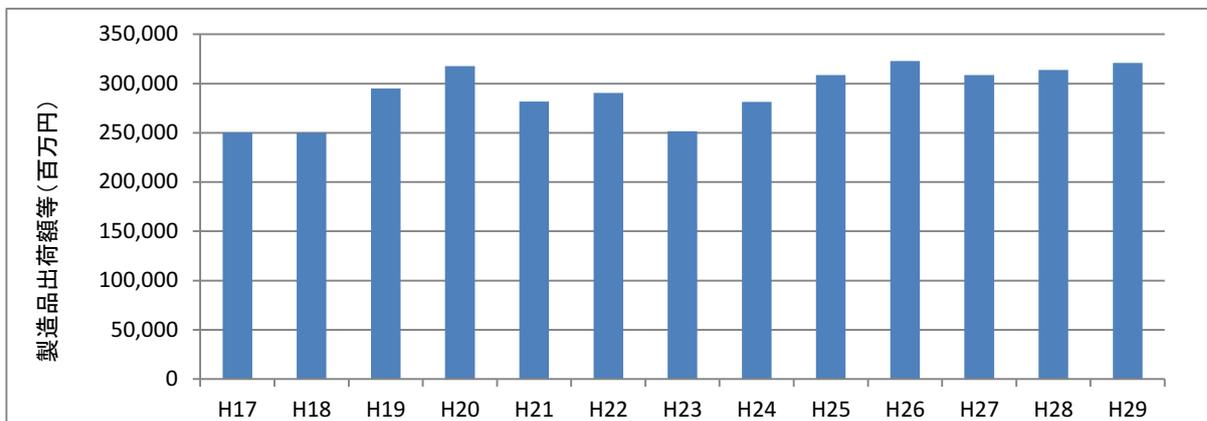


図 製造品出荷額等の推移（資料：工業統計調査）

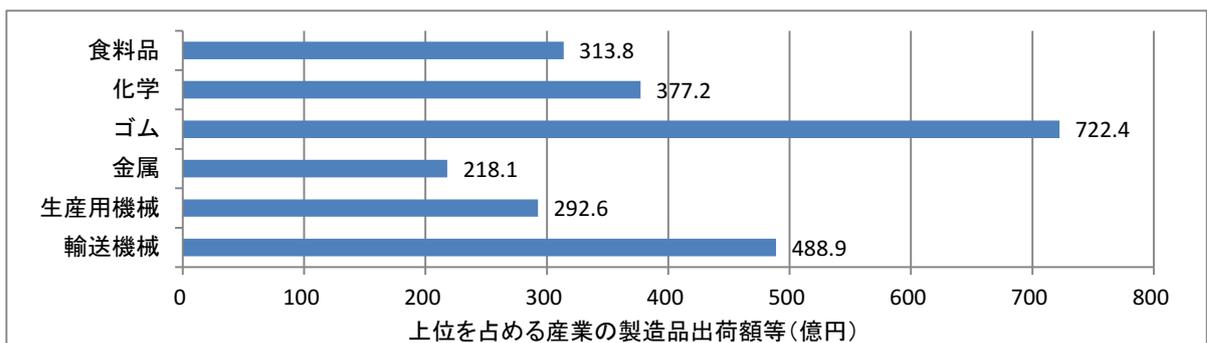


図 産業（中分類）別製造品出荷額等の上位を占める産業（平成 26 年（2014））（資料：工業統計調査）

④商業

本市は、藩政期においては久留米藩の城下町として、明治期になると筑後地域の政治・経済の中心的な都市として成長し、大正期から第2次世界大戦後の高度経済成長期にかけては商工業都市として発展してきました。近年は周辺市町へ郊外大型店舗の立地等も進んでいますが、市の中心部には多くの商業店舗が集積し、中心商店街を形成しています。

第3次産業の産業分類別就業者の割合をみると、卸売・小売業と医療・福祉関連の就業者数が多く、近代以降の「商都」、「医療のまち」としての本市の特性が現在も息づいていることがわかります。

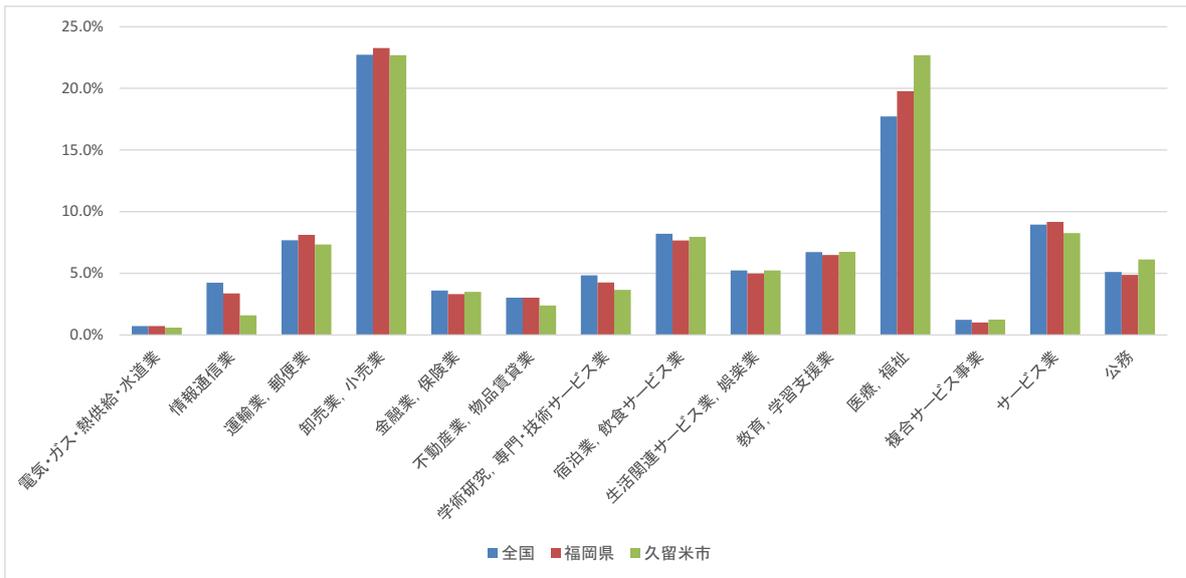


図 産業分類別就業者（第3次産業のみ）の割合（資料：国勢調査）

【コラム】「医療のまち」久留米

九州一の筑後川が流れる本市では、かつて、その川沿いに「日本住血吸虫病」という病気が広がり、多くの人々が亡くなり、苦しみました。この病気の原因の一つであった宮入貝を発見した九州帝国大学（現九州大学）の宮入慶之助、本市に来て研究を重ねたハンター博士らの尽力により根絶に成功しました。

このような経験とともに、昭和3年（1928）、九州医学専門学校（現久留米大学医学部）の設立をきっかけに医療施設の立地が進み、久留米は「医療のまち」と呼ばれるようになりました。

現在、市内には35の病院と300を超える診療所など多くの医療機関があり、人口1,000人あたりの医師数は全国トップクラスです。さらに、高度な医療や検査機能を有する病院があり、救急医療体制が整っているなど、生活圏を越えた九州北部の広域医療拠点となっています。

4) 観光

本市には、筑後川や耳納山地に育まれた豊かな自然をはじめ、多様な観光の資源・機会があります。

具体的には、古代の古墳や国府跡、近世の久留米城跡や社寺が集積する門前町、豊後街道の宿場町の面影を残す歴史的なまちなみ、芸術の薫る石橋文化センターや近代洋画家の坂本繁二郎生家、久留米ラーメンや久留米焼きとりといった食文化、祭りやフルーツ狩り、酒蔵開きなどの四季折々のイベント、地域資源を活かしたプログラムが体験できる久留米まち旅博覧会等が挙げられます。

①観光入込客数の推移

平成 17 年（2005）以降の観光入込客数は、第 3 回 B-1 グランプリ in 久留米が開催され、道の駅くるめがオープンした平成 20 年（2008）に初めて 500 万人を超えました。

平成 23 年（2011）には東日本大震災の影響によるイベント中止などの減少要因があったものの、「没後 100 年青木繁展」等の特別展が開催されるほか、九州新幹線開業の影響もあり、530 万人に達しています。

平成 28 年（2016）に中心市街地の百貨店跡地に文化交流施設の久留米シティプラザが開館し、平成 29 年（2017）には 591.2 万人を記録しました。



図 観光入込客数の推移（資料：福岡県観光入込客推計調査）

②観光の目的

目的別観光入込客数をみると、全体の 52.3%にあたる 309.1 万人が「歴史・文化」を目的としています。

表 目的別入込客数（平成 29 年（2017））（資料：福岡県観光入込客推計調査）

目的	観光客数（千人）	比率
歴史・文化	3,091	52.3%
行祭事・イベント	1,441	24.4%
温泉・健康	284	4.8%
自然	219	3.7%
スポーツ・レクリエーション	120	2.0%
その他観光地点	757	12.8%

③施設・イベント別利用状況

施設・イベント別利用状況をみると、平成 29 年（2017）で最も多いのは道の駅くるめの 75.7 万人、次いで石橋文化センターの 60.3 万人、3 番目がプラネタリウムを有する福岡県青少年科学館の 29.5 万人となっています。

【コラム】久留米まち旅博覧会

久留米まち旅博覧会は、九州新幹線全線開業に向けた観光商品づくりとして平成 20 年（2008）に開始した久留米市、大川市、うきは市、大刀洗町、大木町からなる久留米広域連携中枢都市圏の事業です。令和 1 年（2019）の「秋のまち旅」で 15 回目を迎えました。

「芸術」、「ものづくり」、「歴史」、「農」、「発酵文化」、「医とスポーツ」をテーマに、80 のまち旅（プログラム）を実施しており、地域資源を活用した観光振興に関わる市民の裾野を広げています。本市の重要な観光商品として確立しており、着地型観光の先進的事例として、全国から多くの視察者を迎える事業ともなっています。

5) 土地利用

本市の土地利用は、都市的土地利用（住宅用地、商業用地、工業用地、公益施設用地等）が市域面積の約2割、自然的土地利用（田・畑・山林・水面・その他の自然地）が約7割を占めています。

①都市的土地利用

都市的土地利用は、久留米都市計画区域の市街化区域、北野及び三潞都市計画区域の用途地域内において図られており、概ね良好な土地利用が行われています。

②自然的土地利用

筑後川沿いでは肥沃な土壌と豊富な用水を活かした水田が形成され、耳納山地の麓に果樹や植木などの畑地が連続しています。

本市の農業振興地域は、市街化区域、用途地域、筑後川、並びに耳納山地の一部を除き、概ね市域全体に指定されています。幹線道路沿道や既存集落地を除き農用地区域が定められ、農地の保全が図られています。

筑後川の一部や耳納山地は、「福岡県立自然公園条例」に基づき、筑後川県立自然公園に指定されており、貴重な自然環境の保全が図られています。

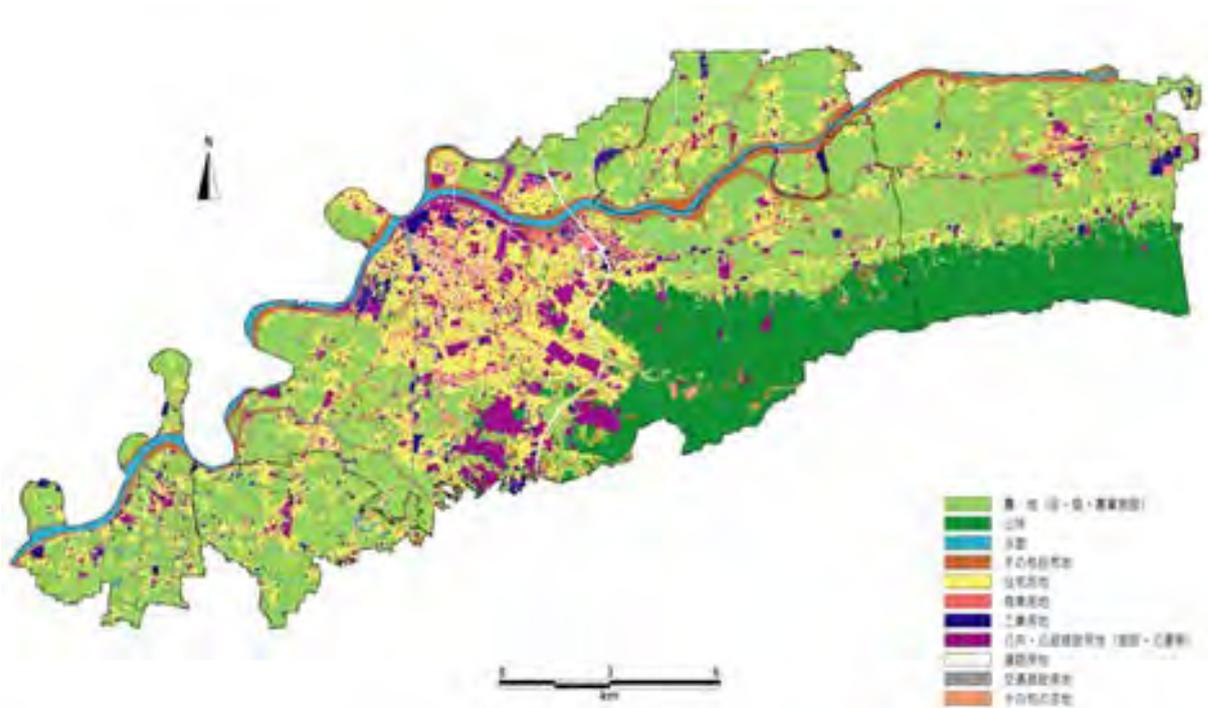


図 土地利用現況（資料：国土利用計画、都市計画基礎調査（平成24年度））

7) 景観

本市の景観特性は、平成30年(2018)3月に変更された現行の景観計画において、(山並みや河川、農地や樹林や樹木で構成される「自然景観」、史跡や寺社、旧街道や伝統的町まちなみ、地域固有の文化などで構成される「歴史・文化景観」、市民の生活空間である住宅地や商工業地、公園や道路、公共施設等で構成される市街地としての「まちなみ景観」で構成されるとまとめられています。

なお、本市の景観計画では、景観特性を捉えるにあたって、坂本繁二郎(1882～1969)、青木繁(1882～1911)、古賀春江(1895～1933)、高島野十郎(1890～1975)、松田諦晶(1886～1961)等を輩出した本市において「絵画に描かれた久留米の景観」を取り上げていることが特筆されます。

①本市の景観特性

●自然景観



写真 筑後川



写真 屏風のような耳納山地



写真 筑後川沿いの田園風景

●歴史・文化景観



写真 久留米城跡



写真 寺町



写真 旧三井寺ポンプ所及び変電所



写真 城島の酒蔵



写真 恵利堰



写真 筑後国府跡

●まちなみ景観



写真 明治通りのイルミネーション



写真 石橋文化センター



写真 緑豊かな住宅地



写真 筑後川と工場群



写真 プリヂストーン通り



写真 池町川緑道

②絵画に描かれた久留米市の景観



写真 水縄山風景（坂本繁二郎）



写真 月下滞船図（青木繁）



写真 筑後川（古賀春江）



写真 筑後川遠望（高野野十郎）



写真 篠山城跡の桜（松田諦晶）

出典：青木繁・坂本繁二郎生誕120周年記念筑後洋画の系譜（石橋美術館）